

無料版

4月号

# ユーストカー NEWS

毎月1日発行

第72号 定価 540円 (本体500円・送料別途)  
本社 東京都新宿区高田馬場3-23-3 ORビル6階  
☎03(3371)9340 FAX 03(3371)9596 www.u-car.co.jp  
本紙の無断転載・複製を禁じます

購読・広告のお申し込みは

☎03-3371-9340

発行所 (株)ユーストカー (株)ユーストカードットコム

# 中古車大学入学式



中古車大学

## 自分たちの業界の事をしっかり勉強する



その場で決めるテクニクニクニク 《21面》

「即決力」

最強買取店の

商談テクニクを二挙公開!

必殺相場人

ケニアの年式規制が変わる?

《24面》

行がなくなった相場はこうなる!!

インタビュー

(株)インディオ富山

## 「車は非常に良いビジネス」

《8面》

人気モデル「解体新書」

《5面》

## マツダ・CX-3



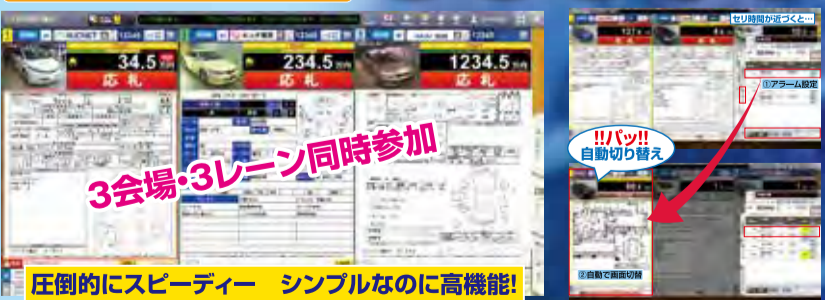
商材は7656万台  
年間5百万台超が産まれ  
5百万台が消えてゆく

何はともあれ、我々の商材である中古車は、どれくらいあるのだろうか。2面と3面に広がる『中古車大仏』の掌(てのひら)を見て欲しい(我々は中古車大仏の掌の中で生かされているのだ!)。右側に書いてある数字の7656万台が、日本で現在、保有している自動車の台数である。自分たちの食い扶持は、この台数の中の何台かを流通させることにより、生まれてきていることを理解し

『中古車大学』——ユーストカーでは、読者のために、この学校を開設することにした。クルマ屋の皆様は、例えば様々な車種の特徴や、AA相場等、現場での局地的なことは知っているだろう。しかし、我々の商売のフィールドに自動車は何台流通しているのか、業界がどのような数字で成り立っているのか、等のマクロ情報は案外、知らないのではないだろうか。例えば、新車販売台数、中古車販売台数、買取店舗数、年間買取り台数等々……。自分の業界全体のこと、あまり気にしてこなかったと思われる。そこでぜひ、この『中古車大学』へ、我々とともに入学して頂きたい。この大学でまず学ぶのは、小学校で言うなら「あいっお」。自動車業界にいるからには、知っていなければ恥ずかしい基本中の基本である。今回、我々は各方面の企業や団体に協力を頂き、自動車業界を構成する様々な数字を把握したのでお伝えしたい。それでは一時間目の授業を開始しよう。

Web i-Auc アイオーリアル

- 同時3画面
- 即起動
- JAVA不要
- 即切替
- オートアラーム



## 入札接続 112会場

## リアル接続 79会場

# 簡取扱512万台!

(2018年実績)

大好評!!3ヶ月の新規入会特典!! 人気の秘密はコチラ

株式会社 アイオー 株式会社  
〒102-0075 東京都千代田区三番町8-1  
FAX.03-3512-6110 E-MAIL:info@iauc.co.jp

TEL.03-3512-6123 http://www.iauc.co.jp/ 詳しくは アイオー 検索



# 商売をしているのだ!!

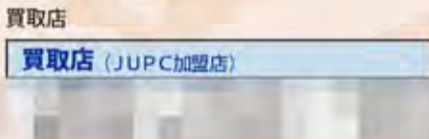
## 外国人ブローカー



新車販売	新車販売台数	登録車	334万7943台	98.7%
		軽自動車	192万4044台	104.4%
中古車販売	中古車販売台数	登録車	383万7482台	99.3%
		軽自動車	311万3916台	101.4%

## ディーラー出品

## 買取店出品



市場規模  
2兆8千億円

孫取り

※新車ディーラー販売分も含む

中古車販売店

在庫処分

軽自動車  
(軽貨物車)  
40万台

軽自動車  
(軽乗用車)  
143万台

貨物車とバス  
43万台

乗用車  
245万台

## 新車ディーラー数



店舗数は数字を丸めてあります

輸入車  
30万台



あなたは1年で何台触りましたか?

# 76556万台

## 日本の車現在の保有台数

## エンドユーザー

有料版では、モザイクの部分全てをお読み頂く事ができます。電話03(3371)9340まで!

## 小売り業者

JU調査 (対象1万39社、回答1569社)	
平均従業員数	
平均整備士数(有資格者)	
年間中古車販売平均売上高	
年間中古車平均販売台数	
中古車販売平均単価	
保証付き販売割合	
平均展示台数	
平均在庫日数	

AA落札車の中身を分析  
8年落ち以上は何割?

中古車は、集計の仕方が新規登録に移転と名義変更を合わせたもの(軽は新規と名義)。つまり、小売店が仕入れた中古車を自社名義に変更したケースでも、販売1台としてカウントされてしまうのだ。  
では、実際の中古車販売台数はどれくらいなのかというと、これは誰にも分からない。ただ、あるシンクタンクの情報による

1年間でどれくらいの車が販売されているのかというと、昨年は登録車(普通自動車、貨物車、バス、特種用途車、大型特殊車、小型三輪貨物車)と軽自動車を含わせて、新車は約527万台、中古車は約695万台だった。  
どちらも前年並みの数字で、大きく変わってはいない。ただ、中古車の場合には正式な『販売台数』ではないことはご存知だろうか?

『中古車販売台数』は  
正式な小売台数ではない

《1面からつぎ》



永久保存版

# 我々はこの掌の上で

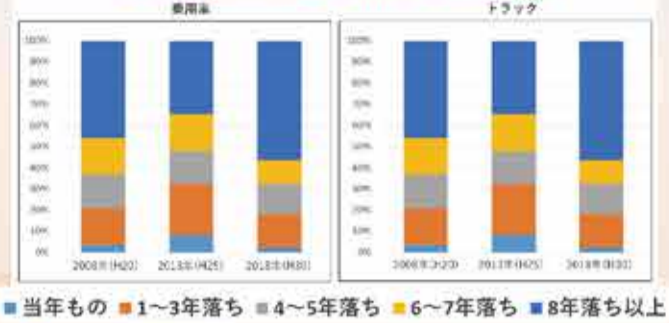


## 2018年仕向け国別中古車輸出 ランキングトップ30

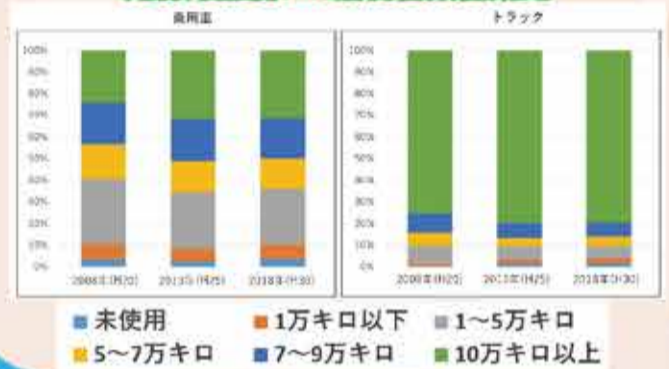
1	126,706
2	116,253
3	95,074
4	92,559
5	89,522
6	77,268
7	70,882
8	67,577
9	60,957
10	58,598
11	54,705
12	38,104
13	29,753
14	28,775
15	25,319
16	21,714
17	15,411
18	15,087
19	13,973
20	11,784
21	11,208
22	10,779
23	10,770
24	9,965
25	9,355
26	8,053
27	7,994
28	7,548
29	7,245
30	6,922



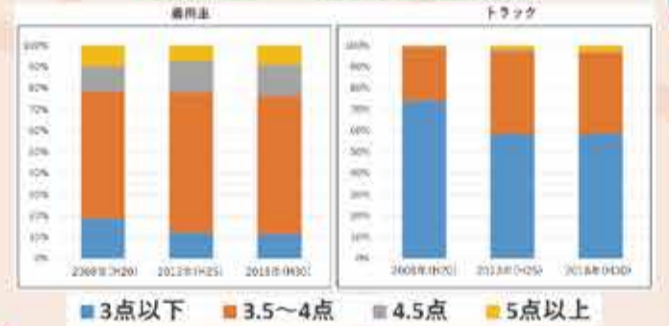
### 登録年式別AA落札台数構成比



### 走行距離別AA落札台数構成比



### 評価点別AA落札台数構成比



※前年比	解体業者	
	AA会場	入札会

リース・シェアリング・レンタカー	リース契約台数 (法人)	165万 3318 台	101.8%
	シェアリング台数	2万 9208 台	
	レンタカー登録台数	65万 9737 台	106.4%
整備工場	整備工場数 (平成 29 年度)	認証 9万 2044、指定 3万 101	
給油所数	給油所数	3万 747 カ所	720 カ所減
中古車査定士	査定士数	13万 5382 人	288 人増
	査定業務実施事業者数	7848 社	10 社増

※出典：自販連、全経自協、交通エコロジー・モビリティ財団、全国レンタカー協会、自壊協、経産省、警察庁、国土交通省、日直協、JU中販連、JPUC、中輸協、IATA

### 乗り換えサイクル

中古車販売店の実績傾向  
月販台数、社員数、在庫日数

あとは事故車(修復歴車)の比率。乗用車を占める。これは多いのか、それとも少ないのか。

有料版では、モザイクの部分全てをお読み頂く事ができます。電話03(3371)9340まで!

《3面からつづき》

この辺り、自社と比べていかがだろうか。予想よりもかなり多い気がしたのは、平均展示台数だ。44・6台。在庫台数ではなく、展示なので、ちよつとビツクリする。比較的、大手が多く回答したのかも知れない。

在庫日数は2カ月。このタイミングでオークションに出品するケースも多々あるだろう。全国のオークション会場では、『初出品』か、それと同様の名称が付くコーナーの対象として、2カ月以内の出品歴がないもの、というのが多い。理にかなっているのだ。

**気になる買取り台数 代替えのおよそ何割が?**

買取店の数字では、J P U C (日本自動車購入協会、井上貴之代表理事)の台数を紹介する。買取りにおいては、J P U C が加盟店に対しての実績を集計・発表している。J P U C には、大手買取りチェーンがほとんど加盟しているの、買取り業界の実績として、みて、十分だと思われる。

有料版では、モザイクの部分全てをお読み頂く事ができます。電話03(3371)9340まで!

最初から下取り査定を出さないで、お客様側で買取店や個人売買で売却を決めてきているという。

ディーラー下取り率がおおよそ7割強という事を考えると、乗り換えるユーザーのおよそが買取店に売却していると思われる。

また、買取店には乗り換え以外の「手放しのみ」のユーザーも利用しているの、合わせて規模の買取りになるのである。

**年間330万台が廃車にリサイクル事業者は激減**

解体に目を向けると、使用済み自動車の引き取り(廃車)は、年間330万台に上っている。これに、後述する輸出台数を加えると、年間の新車販売とほぼ、同じく

らいたの自動車日本から消えている計算だ。ところが、このように廃車の数が増えているにもかかわらず、引取りやフロン類回収業者、破砕業者など、リサイクルに携わる登録事業者は、かなりの勢いで減っている。

前年度との比較でも、700社弱の事業者がいなくなっているが、リサイクル法が施行された平成17年度末には11万8984社だったので、それからすると7万3337社減、実に4割まで縮小している。

最後に、中古車輸出の数字を分析してみたい。昨年は、1年間で132万台の中古車が海外へ輸出された。ただし、実際の台数はもっと多い。というのも、この数字は、中古車輸出業協同組合や国際自動車流通協議会などが、財務省の関税統計をベースに集計・発表しているのだが、財務省が発表している数字には、20万円以下の中古車が含まれていない。少額貨物として中古車輸出統計から除外されているのだ。これも、ご存知だったろうか。つまり、実際に海を渡っている台数はもっと多いのである。ここに、経産省が発表した平成29年度の輸出抹消登録台数があるのだが、それには163万台と記されている。

**「中古車輸出台数」も実は本当の台数ではない**

先述の輸出台数と集計期間が異なるため、一概に比較はできないが、差異がすべて20万円以下の中古車だとすれば、その数は31万台にも上ることになる。

**年間500万台が消えていく……その内訳は**

これまで記したように、我々の業界には、年間500万台強が新車で販売され、新しい商材として市場に加わる。それと同時に、ほぼ同規模の500万台が市場から消えていくのである。その内訳としては、廃車330万台、輸出130万台のほか、少額貨物扱い車両や、部品としての輸出などで40万台程度あると見込まれるので、合計でおおよそ500万台。その流れのなかで、我々の業界が成り立っていることが、分かって頂けたらだろうか。

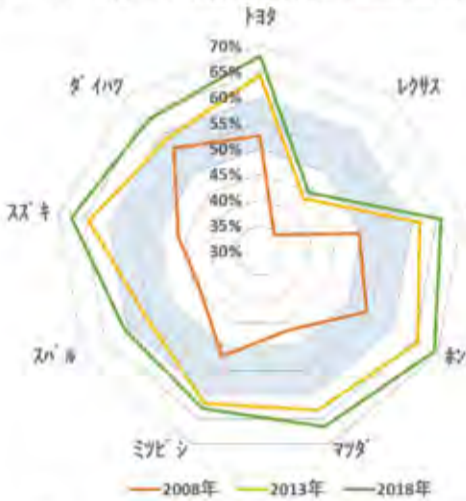
**65歳以上の返納が激増 10年間で15倍以上に**

次に、ユーザー周辺の数字をみてみよう。気になるのは免許保有者数だ。何となく減少している気がしていたのだが、実はここ4年間は毎年伸びている。教習所の数は1330カ所で微減。

しかしその反面、65歳以上の返納件数(申請による取消し件数)が尋常ではない。ここ10年で15倍以上に増えている。前年との比較では約8万件も増加。高齢者のベダル踏み間違えによる事故が社会問題化しているだけに、この傾向は今後も強まりそう。我々、自動車業界に携わる事業者にとっては、考えさせられる実績だ。

**《18面へつづき》**

メーカー別AA成約率推移 (国産乗用車)



中古車 下取り査定ソリューション

サテロク



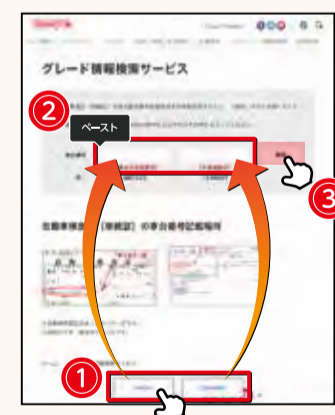
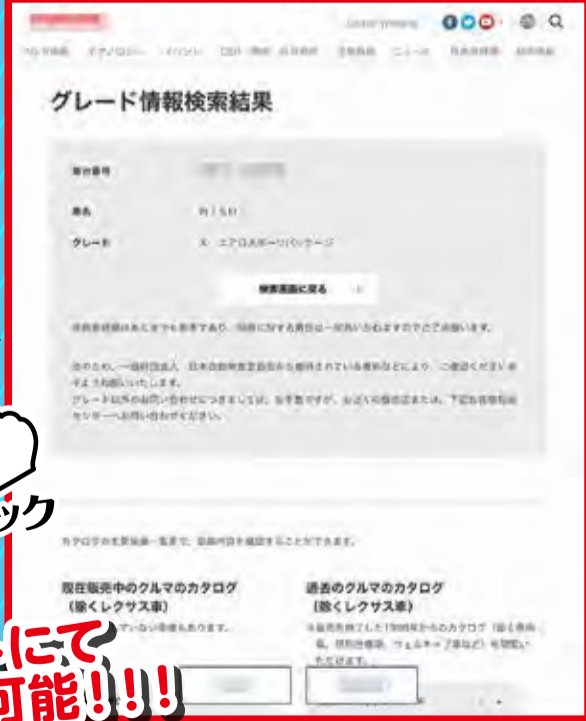
実車を前にペーパーレスでカンタン査定。



車種ごとに修復歴の傾向をAIが判別。

メーカーサイトの活用で より便利に グレード判別が可能!!

車両選択画面に メーカーサイトボタン、HP ボタンが誕生!



メーカーサイトでの検索方法

- ①画面下に表示される車台番号を押してコピーします
- ②「車台番号」欄に①でコピーした車台番号を貼り付けます
- ③「検索」ボタンを押します

メーカーサイトにてグレード検索可能!!!

※国産車限定機能となっております。

暗い場所での撮影もパッチリ! 夕方の撮影も、車の下の撮影も、車内の撮影も、フラッシュ利用でキレイに、見やすい画像撮影! フラッシュの設定を選択可能! ※選択した情報をログアウト後も保持します。 ※フラッシュ機能付き iPad、iPhone が対象となります。 ※Android は既にご利用いただけます。

